

Shapiro RE, et al. Migraine-related stigma and its relationship to disability, interictal burden, and quality of life. *Neurology* 2024;102:e208074.

**【背景・目的】** スティグマ (stigma) とは社会の規範から逸脱している属性を有しているとみなされて、信用を失ったり価値が損なわれたりすることで発生する。片頭痛患者は、周囲の人間からの無理解に基づく言動によってスティグマを受けることがある。本研究は、The Observational survey of the Epidemiology, Treatment and Care Of Migraine (OVERCOME) (US) 研究の一環として行われ、スティグマが生活支障度、間欠期のバーデン、生活の質 (QOL) とどのような関係性があるのかを検討している。

**【方法・結果】** OVERCOME (US) は米国の一般人口構成比と合致した 30 万人近くの対象者の中で、片頭痛患者の割合や診療状況を 1 年ごとに調査する縦断研究である。本研究では、片頭痛に関連したスティグマ (migraine-related stigma: MiRS) を次の 2 つのパターンに分けて調査している。MiRS-SG (secondary gain) は、片頭痛を口実に物事を得たり断ったりしていると見られることで生じるスティグマとした (二次利得型)。一方、MiRS-MB (minimizing burden) は、片頭痛などは大した問題ではないとして、片頭痛によるバーデンが最小化されていると感じて生じるスティグマと定義した (負担最小化型)。本研究では、この 2 種類のスティグマを受けているかを 12 項目の質問票 (MiRS questionnaire) を作成して、それぞれの頻度を勘案してスコア化した。スティグマに苛まれている程度に応じて、MiRS-Never、MiRS-Rarely/sometimes、MiRS-MB Often/very often、MiRS-SG Often/very often、Both Often/very often にグループ分けした。さらに片頭痛による生活への支障度を MIDAS で、発作間欠期のバーデンを MIBS-4 (Migraine Interictal Burden Scale-4) で、社会的活動性や仕事に関連した活動性に対して片頭痛がもたらす機能的インパクトを MSQ-RFR (Migraine-Specific Questionnaire v2.1 Role-Function Restrictive scale) 評価し、それらの指標に対するスティグマが与える影響を解析した。本研究の対象者数は片頭痛患者 59001 名であり、平均年齢 41.3 歳、74.9% が女性、70.1% が白人であった。41.0% が、過去 3 カ月で 1 カ月当たりの頭痛日数 (MHD) が平均 4 日以上であった。53.8% では MIBS-4 はスコア 3 以上 (中等度以上)、44.4% で MIDAS スコア 11 以上 (中等度以上)、平均 MSQ-RFR スコアは 53.9 であった。スティグマを感じている患者の割合は、MiRS-Never 11.4%、MiRS-Rarely/sometimes 56.9%、MiRS-MB Often/very often 16.9%、MiRS-SG Often/very often 2.6%、Both Often/very often 12.1% であった。MiRS-MB Often/very often、MiRS-SG Often/very often、Both Often/very often の 3 つのグループに属する患者は全体の 31.7% である、MiRS-Never に比較すると MHD が有意に高く、さらに MHD が高くなるにつれて MiRS-MB Often/very often と Both Often/very often に属する患者の割合が上昇していた。また、MiRS-MB Often/very often、MiRS-SG Often/very often、Both Often/very often の患者では MIDAS、MIBS-4、MSQ-RFR のスコアがいずれも不良であり、MHD が上昇するとさらにその傾向が顕著であった。

**【結論・コメント】** 本研究は非常に多くの片頭痛患者のサンプリングを行って、約 1/3 の患者が高頻度にスティグマによって苛まれている現状を明らかにした。さらに、MiRS は MHD が多くなると顕著となり、MiRS の存在は片頭痛患者の生活支障度、間欠期のバーデン、QOL を増悪させていることが示された。スティグマは拭い去ることが難しい心理状態であるため、発生を予防することが重要と考えられる。したがって、本研究は、片頭痛が確立した疾患単位であることや、片頭痛が生み出す身体的および心理的苦痛や支障度について社会に周知することの必要性を浮き彫りにしたといえる。